

研究発表

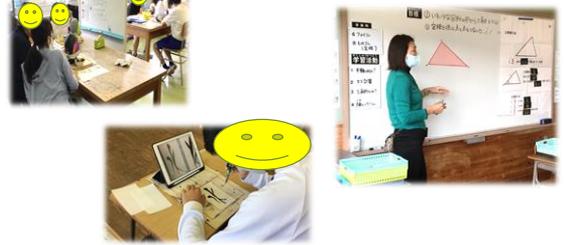
「児童生徒が自ら気づき、考えて行動できる授業づくりの推進」

広島県立呉特別支援学校江能分級

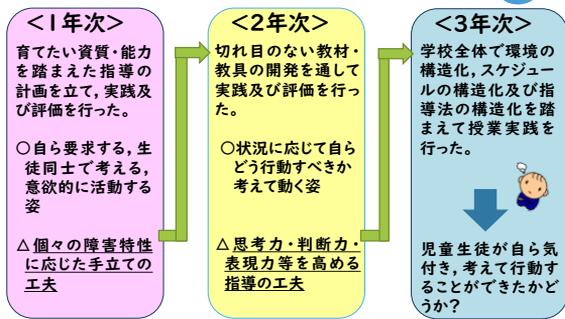
令和2年度までの研究の振り返り

自ら気づき、考えて行動できる授業づくり

～環境の構造化、スケジュールの構造化
及び指導法の構造化を通して～



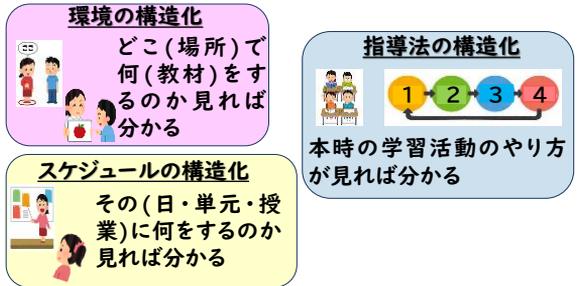
令和2年度までの研究内容



※○は成果、△は課題

研究の視点

自ら気づき考えて行動する姿を引き出すために3つの構造化の手立ては有効であるか？



環境の構造化

スペース(環境)を整備し、どこで何をすれば分かる

場所(空間)

物(教材・教具)

○活動内容と場所を明確化する

○使用する教材やワークシートは大きさや様式等を工夫し、視覚的に分かりやすくする



実施日	自己評価						他者評価					
	環	ス	指				環	ス	指			
7月28日	2	4	3	2	3	3	3.8	3.8	3.4	3.4	3.5	
7月29日	2	4	4	2	2	1	3.4	3.7	3.7	3.5	3.2	3.5
9月11日	4	3	3	2	3	3	3.6	3.4	3.8	3.2	3.1	3.1
9月14日	3	■	3	3	3	3	3.4	3.8	3.9	3.8	3.4	3.8
9月28日	4	2	3	2	2	2	3.8	3.9	4.0	3.9	3.6	3.7
10月6日	4	3	3	3	4	3	3.8	3.5	3.6	3.7	3.7	3.7
10月9日	3	3	2	2	2	2	3.8	3.9	3.5	3.5	3.3	3.3
10月26日	2	3	2	2	2	3	3.6	3.9	3.9	3.3	3.3	3.3
11月11日	3	3	2	2	2	2	3.0	2.7	3.2	2.7	3.0	2.8
12月18日	3	4	3	3	4	4	3.7	4.0	3.4	4.0	4.0	4.0

10名中3名B以上

10名中9名B以上

スケジュールの構造化

その単元、その日、その授業の流れが見れば分かる

流れの提示

- 「目標」、「学習活動」、「振り返り」の3つのカードを学校全体で用いる



- 「学習活動」の提示方法は、実態に応じてパワーポイントやイラストでの提示等、個別の工夫が見られた

- 「学習活動」を生徒に書かせて読ませる、内容カードを児童に貼らせるといった児童生徒参加の提示方法



指導法の構造化

本時の学習活動のやり方が見れば分かる

パターン学習



手順書の提示

- 個別に授業の必要な場面で提示した

繰り返し学習



令和2年度までの研究の成果と課題

成果

- 学校全体で「環境の構造化」、「スケジュールの構造化」、「指導法の構造化」を手立てとして授業実践を行うことで、児童生徒が自ら気付き、考えて行動する様子を引き出すことができた。

課題

- 3つの構造化についての定義の共有化
- 指導法の構造化を踏まえた授業づくりの推進
- 構造化の評価基準を明確にした学習評価

令和3年度 研究テーマ

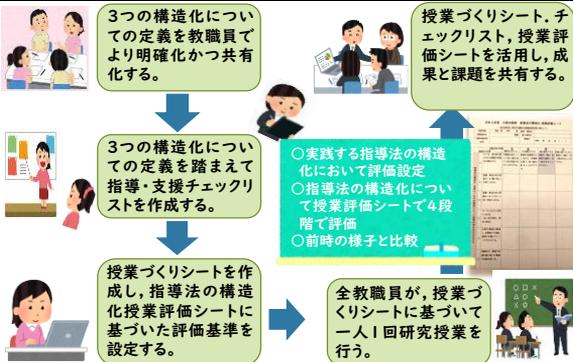
自ら気付き、考えて行動できる

授業づくりの推進（1年次）

～江能分級版3つの構造化における指導・支援チェックリストと『指導法の構造化授業評価シート』を用いて～



研究方法



3つの構造化について定義の共有化

3つの構造化における指導・支援チェックリスト



- ①一人1回研究授業で行った構造化について振り返る



- ②指導・支援チェックリストに当てはまる構造化を検討する



- ③学部でチェックリストに新たに枠組みを追加したり、項目を修正したりする

構造化の評価規準を明確にした学習評価

江能分級版 指導法の構造化授業評価シート

令和3年度 江能分級版 指導法の構造化 授業評価シート

～自ら実行でき、考えを行動する児童生徒の姿に着眼して～

対象学年	小学部 第1・2学年1組	教科・領域名	生活単元学習
授業者氏名	教諭 室原 綾	参観者氏名	
行評児童生徒氏名	見本	実施日	令和3年9月22日(水)

児童生徒の状況	S 期待以上だった	A 十分満足できる	B 概ね満足できる	C 目標に達していない
構造化の授業 やり方、基本等が書かれた手順書を授業内で提示する。	自動販売機の前では、必要最小限の手順書を授業内で提示する。	自動販売機の前では、教師と一緒にイラストや絵カードを見ながら、必要な手順を自分自身で出し、飲み物を飲むことができる。	自動販売機の前では、教師と一緒にイラストや絵カードを見ながら、必要な手順を自分自身で出し、飲み物を飲むことができる。	自動販売機の前では、教師と一緒にイラストや絵カードを見ながら、必要な手順を自分自身で出し、飲み物を飲むことができる。
授業・単元の中に学習ルール(緑り紙)を取り入れる。				
授業・単元の中に学習ルール(バスターン)を取り入れる。				
授業・単元の中に学習ルール(ワックス)を取り入れる。				
授業・単元の中に学習ルール(おまけ)を取り入れる。				

第1回 一人1回研究授業

小学部第1・2学年1組(単一障害学級)6名
生活単元学習「学校たんけんしよう②」
■友だちや教師と一緒に、学校のいろいろな場所までの方向を示す記号カードや言葉を使いながら学校探検をすることができる。

児童生徒氏名	これまでの様子・課題	個別の目標	目標達成のために必要な構造化	評価	特記事項
K児	「右、左、直進の3つの方向カードを見て、「みき、ひだり、まっすぐ」と言葉で答えることができる。」 「拡大したマップ上で右、左、直進の3つの方向に自分の体の向きを変えて、目的地まで歩くことができる。」	「目的地に行くまでの道順を映像で見ながら、右、左、直進の3つの方向カードを自分で並び替えて、正しい道順を作る。」	「目標達成のために必要な構造化とは?」		

事前協議で検討

児童生徒氏名	これまでの様子・課題	個別の目標	目標達成のために必要な構造化	評価	特記事項
K児	「右、左、直進の3つの方向カードを見て「みき、ひだり、まっすぐ」と言葉で答えることができる。」 「マップ上で3つの方向に自分の体を変えて歩くことができる。」	「目的地に行くまでの道順を映像で見ながら、右、左、直進の3つの方向カードを自分で並び替えて正しい道順を作る。」	「目標達成のために必要な構造化とは?」		

手順書をよりよくなる 具体的な教師の手立て

- 手順書が情報過多にならないようにする。
 - 内容を焦点化した手順書にする。
 - 児童が理解して使えるものにする。
- 目標達成のために必要な構造化とは? → ■ やり方、見本等が書かれた手順書を授業内で提示する。

K児に使用した手順書 「てくてくカード」

- 1 始点と終点をはっきりさせて、上から下へと順番に方向カードを貼ることができるようにした。
- 2 水色線で仕切り、1つの方向カードを1つの枠内に貼ることを意識できるようにした。
- 3 教師が黒い紙で情報を隠しながら、今貼るべき箇所注目できるようにした。

第1回一人1回研究授業のまとめ

K児の評価:S評価 (11名中11名)
■ 目的地(場所)カードを提示された段階で方向カードを貼ることができ、それが正しい道順だったため。

児童生徒の状況	S 期待以上だった	A 十分満足できる	B 概ね満足できる	C 目標に達していない
構造化の授業 やり方、基本等が書かれた手順書を授業内で提示する。	自動販売機の前では、必要最小限の手順書を授業内で提示する。	自動販売機の前では、教師と一緒にイラストや絵カードを見ながら、必要な手順を自分自身で出し、飲み物を飲むことができる。	自動販売機の前では、教師と一緒にイラストや絵カードを見ながら、必要な手順を自分自身で出し、飲み物を飲むことができる。	自動販売機の前では、教師と一緒にイラストや絵カードを見ながら、必要な手順を自分自身で出し、飲み物を飲むことができる。

・手順書に無駄な情報がなく洗練されており、K児の実態に合った指導法の構造化となっていて有効であった。
・情報過多にならないようにしていた黒い紙の支援が間に合っていたので、数字や指差しによる提示でも良かった。
・右、左、まっすぐ(直進)という3つの方向から、もっと動きを細分化して「右→進む→止まる→左→…」と概念の形成を広げていくことにつながる今後の応用も見据えることができる。

令和3年度の研究成果と課題

成果

○ 3つの構造化における指導・支援チェックリストを用いて事前協議を行ったことにより、授業評価を効果的に行うことができた。
⇒互いに客観的に研究授業の理解を深め、授業者の内省を深めることができた。付けたい力を付ける授業の推進に繋がっている。

課題

○ 児童生徒により適した指導・支援の積み重ね、「指導・支援チェックリスト」を改善する。